

令和7年度
「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」
のまとめ



令和8年1月



教育委員会あいちの学び推進課

目 次

令和7年度「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」

○ 「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」実施要項	1
○ 令和7年度「地区拡大家庭教育推進協議会」の概要	2
○ 令和7年度 優良家庭教育推進組織等一覧	3
○ 尾張地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告	4
○ 海部地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告	6
○ 知多地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告	8
○ 西三河地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告	10
○ 東三河地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告	12
○ 新城設楽地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告	14



「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」実施要項

1 趣 旨

家庭教育支援に関わる者及び行政関係者（以下「家庭教育関係者」という。）の市町村を越えた情報交換をととして、家庭教育関係者の資質向上を図るとともに、優れた活動を推進している組織等を顕彰することにより、地域におけるきめ細かな家庭教育支援活動を充実させる。

2 事業内容

(1) 地区家庭教育推進協議会の設置

ア 目的

家庭教育関係者による市町村を越えた情報交換や、地域におけるきめ細かな教育支援の方策について検討をすることで、地域での家庭教育支援活動の具体的な推進に資する。

イ 設置場所

尾張、海部、知多、西三河、東三河、新城設楽の6地区を所管する各教育事務所・支所に設置する。

ウ 所掌事項

あいちの学び推進課の指導、助言のもと次の事項を行う。

（ア）各市町村の家庭教育の現状及び支援活動に関わる情報交換や協議

（イ）地域におけるきめ細かな家庭教育支援の具体的・実践的な方策の検討

エ 委員

市町村の家庭教育支援に関わる行政関係者、子育てネットワーカー等の子育て支援者、あるいは子育てサークル代表者を含む家庭教育関係者をもって構成する。

オ 内容

（ア）年3回程度の協議会を開催する。

（イ）上記の内1回は、委員のみならず地域の家庭教育関係者への参加を促した拡大地区家庭教育推進協議会とし、家庭教育に関わるテーマを基にしたグループワークによる情報交換を実施する。

※ 実施にあたっては、市町村や地域の家庭教育推進事業の実践の紹介を含めるなど、地域の特性や実情に応じて内容を工夫する。

カ 庶務

各教育事務所・支所において処理する。

(2) 優良家庭教育推進組織等の顕彰

ア 目的

地域においてきめ細かな家庭教育支援活動を継続して実施し、成果を上げている組織等を顕彰することで、家庭教育振興に関わる地域活動の一層の充実・拡大を図る。

イ その他

顕彰の詳細については、「優良家庭教育推進組織等顕彰事業実施要項」に基づく。

(3) 「『地域に根ざした家庭教育支援推進事業』のまとめ」の作成

今後の活動の参考とするため、地区家庭教育推進協議会の協議内容や優良家庭教育推進組織等の顕彰の記録を集録し、事業のまとめとする。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和5年4月1日から適用する。

令和7年度 地区拡大家庭教育推進協議会の概要

地区	日時・会場	概 要	グループ協議テーマ	参加者数
尾 張	9月17日(水) 13:30～15:55 三の丸庁舎	開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 清須市家庭教育支援チーム「チームMOMO」(清須市) 特定非営利活動法人エム・トゥ・エム(瀬戸市) 実践活動発表 瀬戸市 グループ協議、全体交流 指導助言 閉会行事	ア乳・幼児期の親が「孤」育てにならないために イ変化する親世代のニーズにどう応えるか ウ乳・幼児期の親の「学びの場」づくり エ市町家庭教育担当者としての家庭教育の推進について	50
海 部	11月7日(金) 13:00～15:20 飛島村 中央公民館	開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ とびしま・ペアレンツ(飛島村) 実践活動発表 とびしま・ペアレンツ 「子育てEXPO」(家庭教育支援・子育て支援関係団体による ブース出展と参加者による自由な情報交換・協議) 意見交換 指導助言 閉会行事	「つなぎ つながり つなげよう 家庭教育支援の輪」～海部 地区「子育てEXPO」でコラボ レーション～	49
知 多	11月5日(水) 10:00～12:00 武豊町 中央公民館	開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ パパママ学級東海 ～産前産後ケア～ (東海市) 武豊町家庭教育推進連絡協議会 衣浦小部会(武豊町) ミニ講演 「はたらける居場所 ～社会的孤立を生まないための 居場所プラットホーム～」 あいち福祉振興会 知多地域事業責任者 田窪 英樹 氏 グループ協議 指導講評 閉会行事	「社会的孤立を防ぐための居場所 づくりについて」	52
西 三 河	9月26日(金) 14:00～16:00 西三河総合庁舎	開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 豊田市若園中学校PTA(豊田市) 西尾幡豆子育てネットワークの会(西尾市) 実践活動発表 刈谷市立小垣江小学校区家庭教育推進協議会(刈谷市) 幸田町立深溝小学校PTA(幸田町) 情報交換会 指導講評 閉会行事	「地域全体で家庭教育支援に 取り組むために ～楽しく・つな がるための活動事例や工夫を 持ち寄ろう～」	63
東 三 河	11月11日(火) 13:20～16:00 田原市 田原文化会館	開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 野田校区コミュニティ協議会(田原市) 基調提案 現在の家庭教育推進の取組と課題について 田原市子育て支援課 久瀬 正弘 氏 分科会(グループ協議) 全体会 講話・指導講評 閉会行事	「子育て家庭を社会全体で支え ていくためには」	45
新 城 ・ 設 楽	11月13日(木) 13:30～16:00 設楽町役場	開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 津具地区家庭教育推進協議会 実践活動発表 津具地区家庭教育推進協議会 「地域、家庭で育てよう！心豊かな津具っ子を！」 グループワーク・報告会 指導講評 閉会行事	①「子供を育む地域の力とは？ ～家庭・学校(園)・地域・行政 の連携による家庭教育支援 ～」 ②「不登校・ひきこもりの背景を 理解し、支援の第一歩を考え る」	22

合計 281名

令和7年度 優良家庭教育推進組織等一覧

地区	被表彰組織	実践活動テーマ	表彰日
尾張	清須市家庭教育支援チーム 「チームMOMO」	親子が元気になる家庭教育支援	9/17 (火)
	特定非営利活動法人 エム・トゥ・エム	みんな「と」みんな 心「と」心 「と」、toの役割を果たしていきたい ～すべての子どもを心豊かに育てられる町に何 が必要だろう～	
海部	とびしま・ペアレンツ	“広く 浅く 末永く” ～地域で深める親子の絆 ～	11/7 (金)
知多	パパママ学級東海 ～産前産後ケア～	一人でがんばりすぎずに楽しく子育てができる ように	11/5 (水)
	武豊町家庭教育推進協議会 衣浦小部会	地域とともに みんなで育てよう 衣っ子	
西三河	豊田市立若園中学校PTA	メロディー橋を再生して、 地域に交流のメロディーを響かせよう	9/26 (金)
	西尾幡豆子育てネットワーカー の会	少し先輩ママとして、 若い家庭に寄り添い続ける 地域の子育てネットワーカー	
東三河	野田校区コミュニティ協議会	笑顔で支える地域の暮らし 自ら築く 野田の郷	11/11 (火)
新城設楽	津具地区家庭教育推進協議会	地域、家庭で育てよう！ 心豊かな津具っ子を！	11/13 (木)

尾張地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日 時 令和7年9月17日(水) 午後1時30分～午後3時55分
- 2 会 場 愛知県三の丸庁舎大会議室
- 3 参加者
 - ・協議会委員 16名
 - ・協議会委員以外の参加者 34名
(市町家庭教育担当者16名、家庭教育推進関係者10名、尾張教育事務所職員8名) 合計50名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時30分～午後1時45分
 優良家庭教育推進組織等顕彰
 - ・清須市家庭教育支援チーム「チームMOMO」
 - ・特定非営利活動法人エム・トゥ・エム
- 2 瀬戸市の家庭教育に関わる活動紹介【基調発表】 午後1時45分～午後2時05分



瀬戸市家庭教育・子育て支援事業



瀬戸市の活動紹介では、家庭教育担当者に「福祉総合相談窓口」や、「こども若者家庭センター」の事業について紹介していただき、その後、優良家庭教育推進組織として表彰された、「NPO法人エム・トゥ・エム」の活動について具体的にお話ししていただきました。安心して暮らせるまちづくりの実践に対して、参加者から「参考にしたい」という声が多く聞かれました。



- 3 グループ協議・情報交換等 午後2時10分～午後3時40分
 4分科会7グループの意見(抜粋) (数)はグループ数



乳・幼児期の親が「孤」育てにならないために①

～支援が必要な家庭にどう気づき、寄り添うか？～

- ・コミュニケーションが苦手な親が増え、気持ちを読み取ることが難しい。
- 健診等の機会に不安そうな雰囲気キャッチし、こちらから声かけすることが大切。
- ・子育て相談に参加できる親は「孤」ではない。参加できない「見えない家庭」を見つける。
- 支援センター等専門の機関でなくても、別の行事に参加した際にどれだけ気づき、見つけれられるか。気になったらすぐに関係機関につなげていくことが大切。

変化する親世代のニーズにどう応えるか③

～スマホ・核家族・共働きなどを踏まえた、令和に必要な支援とは？～

- ・スマホは害もあるが、便利であり、現在はあって当たり前のものになっている。
- ルールをしっかりと定めることが大切。SNS やスマホアプリ等で家庭教育の情報を配信していくなど、工夫して使用できるようにしていくことが大切。
- ・核家族、共働きを当たり前として受け入れる。
- 弁当を購入したり、自治体のサポート事業を上手に活用したりするなど、親子で過ごせる時間をどれだけ生み出せるかが大切。

乳・幼児期の親の「学びの場」づくり①

～地域でどう工夫し支えるか？～

- ・各市町工夫を凝らした行事を行っている。しかし、なかなか多数の参加にはつながらない。
- 初めての親でも安心して参加できる配慮が大切。また、0歳時のみのように、1年単発ではなく、継続的な学びとつながりを提供することが大切。その中で、直接親子の姿を見られる事も家庭を支える上で非常に重要。
- ・関係機関がなかなか介入できていない。
- 保健師、民生委員などとの連携を密にし、地域で支える仕組みを整えることが大切。

市町家庭教育担当者としての

家庭教育の推進について②

- ・家庭を支援する事業の企画や運営が必要。
- 親子で参加できる行事の運営を工夫しているが、参加者を増やすために活動が「遊び」に寄ってることが課題である。
- ・今後、家庭教育支援チームと自治体がどのように連携していくか。
- 1つの支援チームが多くの分野をカバーしていくことは難しい。それぞれの団体が、得意とする分野で支援していくという形から進めていくことが大切。

4 閉会行事

午後3時45分～午後3時55分

Ⅲ 課題や今後の取組について

グループ協議のテーマについては、会長との事前打ち合わせの際に、今年度は乳・幼児期の子育てにしぼり、より専門的な協議とし、理解を深めることをねらった。第1回尾張地区家庭教育推進協議会の場で、グループで協議したいテーマを募り、その後、どのテーマの分科会に参加したいかの希望をとり、全員が希望の分科会に参加できるようにした。これは、自分がどのテーマで話すのか、参加者へ事前に意識付けることもねらっている。

当日の瀬戸市による基調発表を、瀬戸市の活動紹介と、NPO法人エム・トゥ・エムの活動紹介としたため、参加者がそれぞれの市町で行われている事業と照らし合わせることで、今後、困り感を抱いている家庭にどのようにアプローチしていけばいいのか、理解を深めることができた。アンケートにも、今回の会で他市町の家庭教育の活動について知ることができ、今後の活動に生かしていきたいという、本会の意義を前向きに捉えた声が多く寄せられた。

また、家庭教育に関わる県の情勢を知る機会になったことについて肯定的な意見が多かった。本会のように家庭教育に携わる方々が一同に集う場はなかなかないので、この場を通じて、参加者自身の学習の場となる工夫は今後必要であると考えます。

家庭教育は範囲がとても広いために、協議する内容を明確にすることが大切である。今後も、参加者がどのような情報を得たいのか、また、発信したいのか、この会で何をしたいのか明確になった状態で参加できるように、工夫を凝らしていきたい。

大変お忙しい中、せっかく時間を作って参加してくださっているので、これからも、参加者の立場になり、会長地区と連絡を密にし、実のある協議会となるよう執り進めていきたい。

海部地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日 時 令和7年11月7日（金）午後1時00分～午後3時20分
- 2 会 場 飛島村中央公民館
- 3 参加者 協議会委員（16名）
津島市教育委員会教育長（1名）、海部地区小中学校長会長（1名）、
海部地区PTA連絡協議会長（1名）、津島市PTA連合会長（1名）、
県教育委員会関係者（4人）、
市町村子育て福祉関係部課（3名）、市町村子育て支援団体（11名）、
市町村PTA代表者（8名）、優良家庭教育推進組織（1名）、
飛島村教育委員会生涯学習課（2名）

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時00分～午後1時20分
優良家庭教育推進組織等顕彰

とびしま・ペアレンツは、平成22年に飛島学園を中心として発足された地域ボランティア団体です。“広く、浅く、末永く”の方針のもと、親子のコミュニケーションを深めるとともに地域のふれあいを育み、地域全体に貢献すること、地域の保護者や企業などの協力を得て、幅広い年齢層の大人が子供たちとふれあい、語り合いながら子供たちの健全な育成を目指すことをねらいとして活動しています。

防災キャンプ・クリーンアップ大作戦・餅つき体験・アウトドアスポーツイベントなど様々な活動を通して、子供たちが共通の目標に向かって協力して取り組んだり、保護者や地域住民同士のつながりを深めたりすることができました。今後は、コミュニティスクールの一員として、「地域とともにある学校」に向けて貢献できるように活動範囲の拡充を目指していきます。



2 事例発表

午後1時20分～午後1時35分
【とびしま・ペアレンツの発表】



3 出展ブース自己紹介

午後1時35分～午後1時55分
【自己紹介する出展団体】



4 協議会 午後1時55分～午後3時5分

つなぎ つながり つなげよう 家庭教育支援の輪
～海部地区「子育てEXPO」でコラボレーション～

(1) 海部地区「子育てEXPO」

「令和7年度海部地区家庭教育支援・子育て支援関係団体データベース」に登録してある62団体のうち、7団体が日頃の活動を紹介するブースを出展しました。体験型のブースの多数の出展により、来場者に新たな視点や気づきを提供する有意義な機会となりました。

【子育てEXPOの様子】



雰囲気あいま
みまわし
ました。
霧和
囲気
のあ
い
あ
い
と
し
た
弾



熱意ある方々の取組
に共感しました。



笑顔があふれました。
アートマジック・バルーン
を体験して、自然と



たくさんの方との出会いと
会話が、多くなりました。

(2) 意見交換

家庭教育支援を行き届かせるための工夫・子育てしやすい街作りのためにというテーマで語り合いました。交流を図りながら、互いの家庭教育支援活動・子育て支援活動を知り、活動者同士のつながりを目指した顔のつながる情報交換となりました。



4 指導助言 午後3時5分～午後3時15分

愛知県教育委員会あいちの学び推進課主査より、現代の子育て家庭が直面している課題、子育て世代を社会全体で支える意義についての指導助言がありました。

5 閉会行事 午後3時15分～午後3時20分

Ⅲ 課題や今後の取組について

「とてもよい取組」という参加者の声が多かったです。今年度の取組の成果と課題、県の方針等を踏まえながら、各関係団体のつながりをさらに強めることができるように来年度の方針・内容を検討していきます。

知多地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日 時 令和7年11月5日（水）午前10時00分から正午
- 2 会 場 武豊町中央公民館
- 3 参加者 ・協議会委員 23名
・協議会委員以外の参加者 27名
（行政関係者6名、子育て支援関係者6名、ネットワーカー15名）

II 日程・内容

- 1 開会行事 午前10時00分～午前10時15分
優良家庭教育推進組織の顕彰

◇パパママ学級東海 ～産前産後ケア～（東海市）

現代は核家族が多いこともあり、育児の比重が母親に偏りがちな現状にある。父親の育休取得が増えてきたとはいえ、自分一人での育児には精神的にも肉体的にも限界がくる。自分の子育ての悩みを打ち明けたり、先輩ママの話を聞いたり、地域ならではの情報をシェアし合ったりする場を設けたり、保育士や育児ボランティアに子供を預けて自分の時間を取れる機会を設けたりしている。自分一人でがんばりすぎずに、周りに頼りながら育児をすることの大切さを伝えている。



◇武豊町家庭教育推進連絡協議会 衣浦小部会（武豊町）

衣浦小学校PTA・衣の会（旧おやじの会）・じじばばの会（地域ボランティア）・豊友会（大足老人会）が中心となり、児童の自然体験活動や校内環境整備に取り組んでいる。地域学校協働本部と連携し、学校教育だけでなく、地域の方々にご協力いただきながら、子供たちを地域で育てる活動を推進している。

- 2 ミニ講演 午前10時15分～午前10時55分

「はたらける居場所 ～社会的孤立を生まないための居場所プラットフォーム～」

講師：あいち福祉振興会 知多地域事業責任者 田窪 英樹 様



- ・「はたらける居場所」とは、就労困難な方が作業を通じて社会参加でき、「居ること」にも価値を置く空間。
- ・空き時間や空間を地域に開放し、認知症カフェや学習支援など多様な活動が共存する「居場所のプラットフォーム」として地域のニーズに responding している。
- ・不登校や進路に悩む若者を受け入れ、ゲームなどを通じた交流で、多世代が関わり合う場を育てている。
- ・今後は、地域の理解と協力を得ながら活動を継続し、誰もが関われる居場所づくりを他地域にも広げたい。

3 グループ協議 午前10時55分～午前11時40分 「社会的孤立を防ぐための居場所づくりについて」 ＜協議後のグループ発表より＞

- ・居場所づくり事業の認知度向上には、市町との連携が不可欠であり、より多くの方に届く情報発信の仕組みづくりが求められる。
- ・世代を超えた居場所づくりが進められているが、参加のハードルが高い現状がある。まずは、広報活動を工夫し、誰もが知る機会を増やすことが第一歩である。



- ・子供の健診などの場を活用して、情報提供を行うことが有効。直接会うだけでなく、インターネットを通じたつながりも選択肢として広げていきたい。
- ・PTA や子育てネットワーカー、行政が日々寄り添いながら、孤立を防ぐための場づくりを継続していくことが重要である。活動そのものが支援者自身の居場所にもなっている。

＜参加者の声（アンケートより抜粋）＞

- ・居場所の大切さを改めて実感し、非常に学びの多い時間となりました。今後も、自分にできることを継続して取り組んでいきたいと思います。
- ・子供も大人も関係なく、誰もが居場所をもっています。まずは自分自身がその存在に気づき、さらに周囲の人にも気づいてもらうことが大切だと感じました。
- ・かつて地区ごとに児童館が充実しており、放課後の子供たちの居場所として機能していました。しかし、現在は児童館の数が減り、子供の姿を放課後に見かけることも少なくなっています。図書館を居場所として活用する取組は素晴らしいと思います。
- ・家庭教育を担当する行政職員として、現場で活動されている皆様の率直なご意見を直接伺うことができ、大変参考になりました。
- ・現場で活動されている皆様との意見交換は、今後の事業企画や運営に役立つ多くの要素がありました。いただいたご意見や情報は課内で共有し、今後の事業展開にしっかりと反映していきたいと考えています。

4 指導講評 午前11時40分～午前11時50分

5 開会行事 午前11時50分

Ⅲ 成果と課題

今回の協議会では、異なる自治体や職種の参加者が集まり、情報共有と意見交換を通じて多様な視点を得ることができた。また、「居場所」の重要性を再認識する声が多く寄せられ、子供だけでなく、成人や高齢者を含めた幅広い視点での居場所づくりの必要性が共有された。現場の率直な意見や他市町との情報交換は、ネットワーク強化にもつながる有意義な機会となった。

今後に向けては、参加者数の拡大と多様性をさらに広げるために、広報の工夫やネットワークの活用を強化していきたい。また、グループ協議の目的を明確化し、時間配分を改善して質を高めること、さらに運営方法を再検討し、より充実した内容にしていきたい。

西三河地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日 時 令和7年9月26日（金）午後2時～午後4時
- 2 会 場 西三河総合庁舎 10階大会議室
- 3 参加者 ・協議会委員 21名
・協議会以外の参加者 42名（子育てネットワーカー10名、家庭教育・子育て支援者7名、行政関係者7名、学校関係者3名、PTA等保護者15名） 合計63名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後2時00分～午後2時15分
優良家庭教育推進組織等顕彰



【顕彰式】

豊田市若園中学校PTA（豊田市）

地域と協力し、築40年のメロディー橋を修繕するプロジェクトを実施。奉仕作業や清掃活動、資源リサイクルを通じて親子や地域の交流を深め、郷土愛と自己肯定感を育む取り組みを続けている。

西尾幡豆子育てネットワーカーの会（西尾市）

平成23年の西尾市合併を契機に平成25年に子育てネットワーカーが結集して設立。親子講座や家庭教育講話を通じて家庭教育の大切さを伝えるとともに、孤立しがちな家庭に寄り添う伴走型子育て支援を展開している。

2 実践活動発表 午後2時15分～午後2時45分

刈谷市立小垣江小学校区家庭教育推進協議会（刈谷市）

あいさつを軸に、ア（安全・安心）、ボ（防災・減災）、カ（環境・美化）、ド（同調・協働）の頭文字を取った「ア・ボ・カ・ド活動」を進め、登校見守りや、防災備蓄、親子清掃、環境講演、地域学校協働活動などを実施。家庭・学校・地域が連携し、子供の安全と学びを支える取組を展開している。

幸田町立深溝小学校PTA（幸田町）

地域と連携し、毎月の奉仕作業や授業参観、制服リサイクル、親子観劇会、ふこうず夏まつり、学区ユニバーサルホッケー大会などを開催。草刈りや清掃、交流イベントを通じて、保護者・地域・学校が協働し、子供たちの学びと安心できる環境づくりに取り組んでいる。



【実践活動発表】

3 グループ協議、情報交換会 午後2時50分～午後4時00

＜テーマ＞ 地域全体で家庭教育支援に取り組むために
～楽しく・つながるための活動事例や工夫を持ち寄ろう～



【10グループに分かれて情報交換】



【代表グループによる発表】

参加者の意見から

- ・役員のなり手不足や活動の負担が大きいことが共通課題。
- ・PTA活動のスリム化、立候補制、紙面総会、マニュアル化などを導入。
- ・授業参観とイベントの組み合わせや、活動の「楽しさ」を伝える工夫。
- ・「わいわい子育て講座」「ホームスタート」等、親子や地域住民との交流を重視。
- ・外国籍家庭への防災対応、NPOや高齢者との連携、見守り活動など、地域で子供を育てる意識の醸成。
- ・支援情報が届かない家庭や参加者の固定化への対応が必要。
- ・様々な立場の人が協働し、地域全体で子育てを支える仕組みづくりが大切。

4 閉会行事 午後3時55分～午後4時00分

Ⅲ 課題や今後の取組について

今回の協議会では、事前準備を工夫し、参加者が効率的に話し合うことができる環境づくりに取り組んだ。具体的には、情報交換会のテーマとその設定理由等をワークシートに示し、事前に参加者に参考資料として配付した。これにより、参加者は自分の意見を考えたうえで協議に臨むことができ、限られた時間の中で効果的な意見交換をすることができた。アンケート結果でも、80%以上の参加者が「ワークシートがあったことで話し合いがしやすかった」と回答している。

また、情報交換会のテーマを一つに絞ったことで「立場が違うと考え方も違って参考になった」という肯定的な意見が多く寄せられた。一方で、「話し合いが深まらなかった」という課題も指摘され、協議の質を高める工夫が必要であることが明らかになった。

今回の拡大家庭教育推進協議会を通じて、限られた時間の中でどこに焦点を当て、何を目的に行うかを明確にすることの重要性が再認識された。目的やゴールを事前に共有し、議論を深めるための問いかけや進行の工夫を取り入れることで、より充実した協議会を目指す必要がある。今後は、アンケート結果を踏まえ、ファシリテーターによる議論の深掘り支援を取り入れたり、事前準備の工夫を継続したりしつつ、参加者が学びを実感できる協議会となるよう努めていきたい。

東三河地区 「拡大家庭教育推進協議会」 家庭教育を考える会

I 概 要

- 1 日 時 令和7年11月11日(火) 午後1時20分から午後3時55分
- 2 会 場 田原文化会館(多目的ホール)
- 3 参加者 ・45人
・来賓(開催市教育長) 1人 ・助言者 1人
・顕彰団体代表者 1人 ・協議会委員 17人
・協議会委員以外の参加者 25人(教育行政関係者 4人、
教育相談関係者 10人、子育て支援行政担当者 4人、
福祉関係行政担当者 5人、小中学校PTA 2人)

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時20分から午後1時30分まで
優良家庭教育推進組織等顕彰
野田校区コミュニティ協議会(田原市)



平成23年に設立された野田校区コミュニティ協議会は、4つの専門部会を設け、地域住民の交流を図り、笑顔でともに支え合い助け合う温かなまちづくりを推進しています。これからもスポーツ大会や夏まつりなどの行事を、互いに協力・助け合いながら運営することで、校区に対する思いを一層高めたり、三世代の交流の場としたりしていきたいです。

- 2 基調提案 午後1時40分から午後2時まで
田原市子育て支援課 久瀬 正弘 氏
「子育て家庭を社会全体で支えるには」

現在の取組をとおして、また教育と福祉、両方の現場での経験から、問題を抱える子どもを救うためには教育と福祉の連携こそが不可欠であり、関係者がそれぞれ主体的に関わり、支援を継続していくことが大切であると提案がありました。



3 「グループ協議・全体会」 午後2時から午後3時30分まで ＜テーマ＞子育て家庭を社会全体で支えるには

グループ協議（午後2時から午後3時）

6つのグループに分かれて、自身の立場からできるよりよい子育て支援の在り方を話し合いました。どのグループも、和やかな雰囲気の中で熱心な協議が行われました。互いの立場やできることを理解し合いました。



【参加者の声】

- ・互いが活動を進めていく中で、困難に感じていることを出し合い、解決の方法をアドバイスしたり、共に考えたりすることで、協働できるかもしれないという連携の形を模索することができた。
- ・学校関係者ともっと連絡を密にとり合えたらいいのにとと思うので、学校関係の方（生徒指導担当者）にも、参加してもらおうとよい。

全体会（午後3時10分から午後3時30分）

【参加者の声】（全体会ではグループ協議の内容を共有しました。）

- ・いろいろな立場の方がいて、これからの活動の中で、「この人に相談したらよさそう」と頼る相手を見つけられたことは大変有意義だった。
- ・「知ろう」…互いの立場、していることができることがわかる。
「伝えよう」…支援が必要な人に届くように、活動を広める。
「話そう」…直接、顔を見て話すことで、身近な存在になる。

4 指導講評 午後3時30分から午後3時50分まで 助言者

5 閉会行事 午後3時50分から午後3時55分まで 会長あいさつ等

Ⅲ 今後の取組について

各市の担当者の方が、子育て支援や福祉関係の部署に声をかけるなど工夫していただいたので、いろいろな立場の方の参加を得られた。グループ協議では、中身の濃い情報交換ができたという声が多くあった。「テーマが広く、誰でも話しやすい」という声も多くあったが、「話し合いに深まりはなかった」という声もあり、今後の会のもち方、参加者の選定について、よく話し合っていく必要がある。

新城設楽地区「拡大家庭教育推進協議会」 地域で子どもを育むための交流会

I 概要

- 1 日時 令和7年11月13日（木）午後1時30分～午後4時00分
- 2 会場 設楽町役場議場
- 3 参加者 ・協議会委員 9名
・協議会以外の参加者 13名
(家庭教育・子育て支援者5名、行政関係者1名、学校関係者1名、
社会教育委員3名、PTA等保護者3名) 合計22名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時30分～午後1時35分
優良家庭教育推進組織等顕彰

優良家庭教育推進組織「津具地区家庭教育推進協議会」

今年で設立44年目を迎える。構成員は津具地区の保育園と小中学校の保護者、小学校教諭であり、設楽町教育委員会から公的な支援を受けている。子供達は家庭や地域の人々とふれあいながら、自然や地域に学ぶ活動を実践し、豊かな心を育てている。

- 2 実践活動発表 午後1時35分～午後2時05分

「地域、家庭で育てよう！心豊かな津具っ子を！」をテーマに、津具地区家庭教育推進協議会の取組について発表いただいた。音楽や運動等の活動を親子で一緒に楽しむ機会を提供し、観劇や水族館への親子での外出を企画することで、家庭内のコミュニケーションを深める多様な活動を紹介いただいた。さらに、地域に貢献する活動や地域の協力を得る活動を工夫し、地域ぐるみで取り組む様子も示された。



【実践活動発表】

- 3 グループ協議、情報交換会 午後2時15分～午後3時40分

<大きなテーマ> 家庭教育支援の取組とその工夫

グループA B C D…『子供を育む地域の力とは？』

～家庭・学校（園）・地域・行政の連携による家庭教育支援～

グループE…『不登校・ひきこもりの背景を理解し、支援の第一歩を考える』



【グループワークの様子】



【グループワークの報告】

グループ A

行政や学校に任せきりにして「やってくれるだろう」と待つのではなく、地域や関係者が主体的に連携していく姿勢が重要である。今後は、困り感をどれだけ共有し、共通理解を深められるかが、支援の質を高める鍵となる。

グループ D

子ども支援センターと保育園との連携を強化し、イベント等合同開催している事例が紹介された。子育て支援団体に協力を依頼することも有効である。今後は、行政と子育て支援団体の協力体制が一層深化し、充実していくことが望まれる。

グループ B

地域における課題として、少子化や共働き家庭の増加が挙げられる。牽引する人が存在すると、組織や集まりが機能しやすく、同じ目標に向かって活動できるのではないかな。今後は、スマートフォンなどの ICT を活用し、情報共有や連絡手段の工夫が必要。

グループ E

不登校のきっかけはささいなことも多く、子供の変化に早めに気付くことが重要。話しやすい環境を整え、タイミングを逃さず声をかけることが求められる。学校や家庭で前向きな声かけを行い、子供が希望を持てるよう支援することが大切。

グループ C

共働き家庭が多い現状から、保護者に時間的な余裕がなく、子供を十分に見守ることが難しい。このような状況を補うため、地域や学校が連携し、子供を支える仕組みづくりが必要。子供達が地域や社会に出て学ぶ場を増やすことが望まれる。

【参加者の声】

- ・自分の悩みも共有してもらえたことで、他地域の情報を知ることができ、とても有意義だった。
- ・立場の異なる方とのグループ協議だったので、違う視点からの考え方やアイデアが浮かんできた。

4 指導講評 午後 3 時40分～午後 4 時00分

5 閉会行事 午後 4 時00分～午後 4 時05分

Ⅲ 課題や今後の取組について

グループ協議では、事前に参加者に興味のあるテーマを選択していただき、その結果をもとにグループ分けを行った。どのグループでも活発な話し合いが展開された。また、各市町村の家庭教育担当者の方々が、子育て支援や福祉部局の担当者にも声をかけてくださったことで、参加者の幅が広がり、より多様な視点から意見交換が行われた。今後も委員の皆さんと協議を重ね、学びの多い協議会となるよう、改善策を講じていきたい。



令和7年度

「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」のまとめ

令和8年1月発行

愛知県教育委員会あいちの学び推進課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電 話 052-954-6780 (ダイヤルイン)

ファックス 052-954-6962